

「じぶんの町を良くする活動」を積極的に支援

「赤い羽根アクションプランいわて」の中間年にあたる今年度は現行事業の評価・見直しを図り市民・企業・団体等の参加を得て、幅広く展開します。

平成28年度の事業方針

共同募金運動創設70周年の節目の年として、更なる運動推進に向け取り組むため、

本県の地域福祉を財源面から支える共同募金を目指す平成26年度から平成30年度までの5か年計画として、「赤い羽根アクションプランいわて」を策定し事業展開していることから、計画の進捗状況に基づき中間年にあたる平成28年度に評価・見直しを行い

ます。

本会及び市町村共同募金委員会（以下、「市町村共募」として、組織運営や業務体制について基盤強化を行うとともに、共同募金を県内の福祉課題を解決していくための民間財源であることを、幅広く市民・企業・団体から理解と共感を得ながら、各種事業や募金運動を展開します。



平成28年度 資金収支予算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日
(単位：千円)

科 目	今 年 度 当 初 預 算 額	前 年 度 当 初 預 算 額	増 減
収 入 の 部	501,147	487,068	14,079
共同募金収入	378,078	377,218	860
共同募金以外寄付金収入	202	2	200
災害義援金収入	1,906	2,266	-360
区域外災害等準備金収入	0	0	0
事業収入・受取利息収入・その他収入	16,403	18,351	-1,948
前期末支払資金残高	104,558	89,231	15,327
支 出 の 部	401,146	390,466	10,680
人件費・事務費・事業費・分担金支出	66,901	65,338	1,563
共同募金配分金支出	313,297	303,215	10,082
共同募金以外寄付金配分金支出	202	2	200
災害義援金支出	1,906	2,266	-360
災害等準備金配分金支出	3,000	3,000	0
災害ボランティア・NPO活動配分金支出	15,340	16,280	-940
過年度配分金修正支出	200	0	200
予備費	300	365	-65
当期末支払資金残高	100,001	96,602	3,399



※写真は平成27年度の事業から

平成28年度 重點事業

1 赤い羽根アクションプランいわて（平成26年度～平成30年度）の着実な推進と評価・見直し

(1)70年答申との連動

中央共同募金会が策定する「70年答申」による推進方策に連動し、本会及び市町村共同募金委員会における具体的な取組の進捗状況の調査と評価を行う。

(2)地域で社会の生活課題に取り組む市民・団体への積極的な支援

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるように、住民主体の福祉のまちづくりの活動を支援する。

(3)新たな募金手法を積極的に取り入れた募金の増額

企業、団体、NPO法人などの新たなパートナーと協働した新しい募金手法を取り入れ、募金の増額に取り組む。

(4)募金運動の透明性を確保し、組織運営の強化を推進

募金の使途について、寄付者、住民にわかりやすく広報し、透明性のある募金運動を進めるとともに、市町村共募の円滑な業務推進と組織運営を図るため訪問による点検指導を行う。

(5)現行事業の見直しを積極的に推進

本会として委員会等での協議や市町村共募と情報共有をとおして検討を行い、将来を見据えた募金目標額の設定や助成事業の見直しを図る。

2 被災地復興支援と大規模災害への対応

(1)東日本大震災被災者への支援

東日本大震災被災地の復興に向けて、被災地住民の孤立を防ぐとともに、日常生活を支える活動や、コミュニティ再生を目的とした活動を支援するため、中期的に活動を行う団体等を重点に、引き続き「住民支え合い活動助成」を実施する。

(2)大規模災害への対応、支援

県内でも、近年大規模な災害が発生しており、災害等準備金の速やかな助成が期待されている。災害時に備え、災害等準備金を計画的に積み立てるとともに、市町村共募、関係機関との連携強化を図る。

(3)第7回赤い羽根全国ミーティング in 宮城（主催：中央共同募金会）への参加

宮城県松島町で開催される全国ミーティングにおいて、被災地支援や復興をテーマとした内容となることから、実行委員会による運営協力と近隣県としての県内関係者の積極的参画。



実施計画（基本方策と事業概要）

赤い羽根アクションプラン いわてによる事業

地域で社会の生活課題に取り組む市民・団体への積極的な支援

①一般公募助成導入に向けた取組

■じぶんの町を良くする活動を支援

②募金運動期間拡大の積極的活用 【地域みまもり応援募金】

■「地域から孤立をなくそう」をテーマに地域の生活課題解決に向けた取組を「地域みまもり応援募金」として実施。厚生労働省認可を受け1月～3月の期間を活用

新たな募金手法を積極的に取り入れた募金の増額

①新たな募金手法の開拓・普及。多くの支援者を巻き込み、新たな募金手法の開拓を推進、募金増額を図る。

■赤い羽根自動販売機の設置促進

■寄付つき商品の積極的開発

■赤い羽根サポーターの積極的拡大

■イベント募金・法人募金の積極的推進

■遺贈・遺産寄付による募金の広報周知

②寄付者への分かりやすい広報活動の推進

■若者向けグッズの積極的導入に向けた検討

■本会及び市町村共募での広報・チラシの取組強化

■ありがとうが見える募金運動の推進

組織の透明性を確保し、組織運営の強化を推進

①市町村共募との連携強化と人材養成・育成

■市町村社協（共募）新任役職員に対する研修の実施（県社協と連携）

■市町村共募の自主点検表に基づき、業務点検を目的とした巡回訪問の実施（通年実施）

■第7回赤い羽根全国ミーティング（6月22日～23日／宮城県松島）など全国研修会への参加 ※市町村共募への参加助成

②関係機関・団体・企業との連携強化。社会福祉協議会、NPO、住民団体、企業・団体との積極的な連携と協働を推進する。

■助成団体による活動報告会の実施（モデル地域として実施）

■企業・団体・学校等への積極的アプローチ

現行事業の見直しを積極的に推進

①地域福祉重視の共同募金に向けた検討推進

■募金目標額、助成事業、事務経費の見直しに向けた段階的な取組

■歳末たすけあい運動活性化に向けた見直し

被災地の復興支援と 大規模災害への対応

東日本大震災被災者への支援の取組

①赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」住民支え合い活動助成の実施

■新たな応募要項による対象事業の重点化ほか

大規模災害への対応、支援

①災害義援金の募集

②災害等準備金の積立及び支援制度の実施

③災害見舞金の交付

広報活動の推進の取組

①共同募金に関する情報の発信

■本会ホームページ・SNSによる積極的情報発信

■全戸配布チラシ、広報紙パートナーを活用した情報発信

■募金の透明性を高めるため、中央共同募金会が運営するホームページ「はねっこ」を活用し、本会・市町村共募の募金の使途を公開

②報道機関・関係機関への情報提供と広報協力

③福祉教育との連携

■総合的な学習に向けての情報提供

■学校と連携した募金活動の実施

④助成を受けた団体による使途明示

■助成を受けた施設・団体に対し共同募金受配標識の掲示や広報紙等への記事掲載を徹底し、寄付者への感謝を表す。

民間社会福祉資金助成事業の募集と協力への取組

①民間助成事業の実施・協力

（民間助成団体の社会福祉活動に対する助成事業を周知し、審査・推薦を行う）

助成を実施するための取組

①助成事業の周知及び調査

■施設整備費

■地域福祉活動事業費

■福祉のまちづくり支援事業

②助成計画の策定及び募金目標額の設定

■配分委員会開催（7月、3月 盛岡市）

■一般募金目標額のうち全県目標額の設定の基本方針が共同募金運動研究委員会において示されたことから、今年度は市町村共同募金委員会への説明や意見を聴取したうえで、平成29年度から見直しを図る。

募金運動

①募金運動の実施

共同募金運動70周年記念の年であることを大きな節目とし、新聞広告、テレビ・ラジオスポット放送、広報紙、全戸配布チラシ、ホームページ等を利用して広く県民に募金を呼びかける。また、関係機関・団体、企業との協力・連携のもと多様な方法により募金運動を展開する

■10月1日共同募金運動開始日に「いわて国体」開会式会場内（北上市）の「絆ゾーン」で東日本大震災への全国からの支援に感謝するため共募パネル展示を行うとともに、募金運動開始70周年としての広報実施

岩手県社会福祉大会の実施

①岩手県社会福祉大会の開催

■第69回岩手県社会福祉大会（8月26日／マリオス 大ホール）

顕彰の実施

①顕彰の実施

■表彰・感謝状の贈呈

■共同募金運動70周年記念の顕彰

法人の運営

①法人の運営

②共同募金運動のあり方等に関する検討

③中央共同募金会との連携